

研究課題：骨膜下膿瘍の発症機序

1. 研究の目的

骨膜下膿瘍は比較的稀な疾患です。全身状態に応じてですが、原則準緊急での骨膜切開と洗浄を行う必要があります。Trueta らは、1959 年に骨髓炎が骨膜下に波及することで骨膜下膿瘍の原因であると報告しています。それに対し Labbe らは骨膜の炎症が、骨髓に波及することで骨髓炎を引き起こすと報告しています。当院でも骨髓炎を伴わない骨膜下膿瘍と、伴う骨膜下膿瘍を経験していますが、これらを比較検討した報告はありません。本研究の目的は、骨膜下膿瘍の症例を骨髓炎の有無で比較し、発症機序を明らかにすることです。

2. 研究の方法

2010年1月1日から2024年3月31日までに当センターに受診歴のある骨膜下膿瘍の患者様を診療録から後方視的研究を行います。

3. 研究期間

2024年5月（倫理委員会で承認を得られた日）から2026年5月31日までとなります。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、採血結果、単純レントゲン写真や CT、MRI の画像所見を含めた臨床情報を調べまとめます。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：整形外科 科長 平良勝章

研究分担者：整形外科 医長 町田真理

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2024年11月30日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）